

つてゐたのであるがその一は一八七八年倫敦に運ばれ一は一八八〇年に紐育に運ばれた。

アレキサンドリア市が偉大なる勢力を發揮した最初の時期に於ける知的先覺者中には數學を以て今日まで有名なるイユクリッド (Euclid) 及びその弟子の一人なるアーキミードス (Archimedes) が居り詩人にはシオクリタス (Theophrastus) 及びカリマカス (Callimachus) が居つた。紀元前三〇年に起つた羅馬人の征服後にはネオ・プラトニズム派の哲學が起り、次の時期に於ては猶太人及びキリスト教信者の哲學者等の間に猛烈なる爭論が起つた。紀元六四〇年にはこの都會はマホメットの支配下に陥りそれ以後アレキサンドリアは衰微した。殊に一五一七年土耳其人によつて占領されて以來衰微を極め十九世紀に於てメヘメット・アリ (Mehemet Ali) の治下になつて初めて繁榮を回復した。一七九八年にはこの都會はナポレオンによつて占領されたが一八〇一年には戰鬪五ヶ月の後に英軍に降伏

し、サ・ラルフ・アーバクロムビ (Sir Ralph Abercromby) に指揮された英軍はこれによつて佛軍の埃及進入を阻止した。アラビ・パシャ (Arabi Pasha) が叛亂を起しその一味が市街を掠奪したので一八八二年英軍は市街を砲撃した。

今日にてはアレキサンドリアは埃及の最重要なる貿易中心地であり夏期の埃及政府の本部となつて居る。主要建築物は博物館市有宮殿兵營砲兵工廠である。一九二九年十一月に七〇、〇〇〇平方ヤードの面積を有するスタヂウムが公開された。人口五十七萬餘。

(筆者の都合によりこれにて擱筆)

新著紹介

○大塚地理學會論文集 第二輯(下) 大塚地理學會編

菊版二六三頁 東京古今書院發行 三月 定價二圓

本巻には左の重要な十二篇の論文が編輯されて居て當時の地理研究の傾向を明かにして居ると同時に地方の研究者に地理研究の方針方法を示して居て、眞に指導的啓發的の論文集といふことが出来る。(N)

川口丈夫 北海道人口の地理學的研究(第一報)

小山嘉榮 輪島漆(工業)の地理學的研究(第一報)

櫻井豐記 大和川舊河床地域の文化景觀の進化

武見芳二 人口減少村分布の地方的特色について

西田與四郎 都市地理學研究法序説

花井重次 甲府盆地南縁の地形と其の成因に就いて(豫報)

福井英一郎 本邦に於けるラモント法則の適用について

榊田一二 濟州島海女の地誌學的研究

山本幸雄 本邦の逆デルタの研究

内田寛一 熱海福島における耕地と戸口との關係の一面について

ついで

小黒進 南伊豆地域に於ける特殊栽培景の地理學的分析

大塚加賀次 濱名湖附近の農業地理的考察

○テルル金銀鑛の研究

渡邊萬次郎著 菊版二三一頁
東京新光社發行 二月 定價二圓八十錢

東北帝國大學教授渡邊博士は最近數年テルル金銀鑛に就いて研鑽を繼げられて居た、その研究の結果を一般に判らせる様に述べられたのが本書である。テルル金銀鑛は金銀鑛として品位の上では王様である。五%以上の合金品位で一噸數萬圓に上るものもあることであるから此の鑛石の發見されることは産金増加に資することは偉大である。然かも其の性状は從來一般に知られなかつたものであるから産金にたづさはり又は國富に心を用ふる人士は須かく本書によつて其の知識を

獲得すべきである。既に北海道手稻、岩手縣野尻、宮城縣大谷、長野縣金鷄、靜岡縣蓮台寺及び須崎等の各金山で發見されたこの國家有用の鑛物が他の多くの金山でも認められて其の眞價が國益を増すに到るのは我國國民の祈願であらねばならぬ。

○地質鑛物學概論

坪谷幸六著 横組菊版四三五頁
東京前野書店發賣 定價三圓八十錢

永年第一高等學校教授として地質鑛物學を擅當し、一方鑛床地質學の研究に力を致して居る坪谷幸六氏が此の度好著「地質鑛物學概論」を物された。本書は高等學校教程の悉くを包むガツチリした横組菊版四三五頁の著述である。一讀して特に目立つ事は此の書が所謂ブックメーカーの手で作られたものでない事である。

内容は地質學篇及び鑛物學篇の二部に分たれ必要なものは必ず之を述べ不要の言は一切之を用ゐず、よく地質鑛物學の一般を理解せしむるに努めて居る。所謂ブックメーカーの書は之を讀了した讀者に稍々もすれば斯學の淵奥を極めた様な錯覺を與へる様に出來てゐるが此の著は讀了の後更に讀者の向學心を唆るであらう。其れは著者が學界に於ける現役の士だからである。卷末に附する四大鑛物鑑定表及び英文索引英文索引は著書が現に研究に與つて居るが故に附けらるるに至つたもので、讀者にして活字を通してのみではなく實地に就いて地質鑛物學を體得せんとする時如何に是等が役に立つ

かを知らるるであらう。本書中挿入する所の圖版三八〇箇、何れも内外圖書より引用せる重要な説明圖或は最近に完成せられたる研究の結果にして斯學に志すもの必ず知つておかなければならぬものである。即ち本書は高等諸專門學校の生徒諸君や檢定受験者にとりよき教科書たるのみならず、一般地質學、岩石學、鑛物學及び鑛床學を專攻する學生諸君にとつても實用になり與行きのあるよき參考書として推賞する事が出来る。筆者は本誌上に此の好著を紹介することを寔に欣幸とする。(本間)

○慶州郡

朝鮮生活狀態其七、朝鮮總督府昭和九年二月

菊版五六二頁、寫眞百頁、膨大な慶州郡の調査報告が出たこの調査に當られた人は囑託善生永助氏である、第一章地誌第二章古蹟傳説、第三章衣食住、第四章風俗習慣、第五章聚落、第六章文化思想、第七章經濟事情、第八章家計調査に分たれてあるが、何といつても半島文化發祥の新羅の古都慶州の現在を調査されたものであるだけに、資料は極めて豊富である、曾遊の慶州博物館には知友諸鹿史雄氏や、大坂金太郎氏などの熱心な研究家が居る。善生氏も亦これらの人々を煩はしたと報告されてゐる、本書主として現在の調査であるから古い方面は簡單に記述されてゐるに過ぎないけれども古國新羅の首都の地であるだけに多くの寫眞をみても猶史蹟としてのゆかしさがあり、風俗や習慣の中にも懐古の情誠に斟かざらざるものが存する、殊に慶州方面で現存つくられる所の工

藝品即ち窠葉、瓦や甕、又は素焼をはじめ、木工品、竹製品蠶細工等に古い形の踏襲されてゐる物は、何ともいへぬ雅味が有り、又羅白唾紙といはれた古い楮紙の優良品の復活の如き見るべきものゝ一である、我等は慶州の古都に餘喘を保つ古い藝術が大に更始して新しい時代の要求に應ぜんことを願ひ、本調査資料の如きものゝ利用の大ならんことを望み、總督府の調査資料として、年々この方面に努力せらるゝことに感激する一人である。(藤田)

○長野縣下伊那聚落密度圖

松永勇著 那教育會發行

昭和八年三月に出た同郡聚落分布圖(ドットマップ)によつて之を密度線圖に直したものである、ドットマップでは聚落分布の密度形態が明に表はれてこないから、かやうに改めることによつて地形と聚落との關係が餘程明になる、著者はこの地圖をつくつた等密度線の作爲に關しての一つのパンフレットをつけてゐる、併せて之を見られんことをすゝめる。(藤田)

雜報

○英國經濟聯盟の本邦商品展示

英國經濟聯盟は最

近本邦商品の安價競争が世人の視聽を刺戟する機會に乗じて本邦品粗悪の展覽會をひらき、英國品奨勵をやつたが、場所はウエストミンスターのミルバンクで議會に近い所で、各種